

02

学生たちの中間報告会に参加してきました



ちょこっとお知らせ 12/15 の発表内容

12/15 (月) に行われる「大学生が考えた - 地域資源を活かした観光まちづくりプラン発表会」。11/24に中間報告会が行われました。その時の発表内容について、一足先にお知らせします。

企画の前提は、地域住民の課題

企画の前提となる「地域の課題」のうち、最も重視したのは「まちを好きになるきっかけがない(住民が自分の街を好きになるきっかけづくり)」。泉南市の強みとして、海や山、歴史ある街並みやそれらの景観、歴史や文化があるが、そこに住んでいる住民はその良さを認識していないからだ。

学生が感じた泉南のいいところは「海」

泉南市のいちばんの魅力は「海」。学生にとっては、うらやましいとのこと。にもかかわらず、ゴミなどが多く「あまり大切にされている感じはしない」と感じたらしく、まちの財産として認識されていないのではとの認識だ。

住民からの「ラブコール」に答える内容

把握した住民側からの具体的な「ラブコール(協力要請)」は、歴史的まちなみの活用についてアイデアがほしい(信達市場地区の住民より)と、漁港の活性化(岡田浦漁協さんから)。これに答える内容だ。

企画の「切り口」は海

現地調査のあと学生は、「住民は、海がある利点に気付いていないかも?」との意見が出たとか。なので今回の企画の切り口は「海」としたとのこと。

会場選びと情報発信は、人の集まるところで

会場や、情報発信の「拠点」として、「駅」や「ショッピングモール」の活用を考えている。日常のなかで気づいてもらう工夫が必要だとの認識からだ。

発表された学生たちの企画 (一部のみ・詳細は裏面)

	切り口	活用する地域資源	おもな対象	おもなアイデア	課題解決の方法
A 班	海	戒畑遺跡 (世界でも稀な遺跡「たこつぼづくり」のムラ) + タコツボ漁 (弥生時代から近年まで続く伝統)	集客施設の来場者 (ショッピングモールなど)	①地域 + 学生 + 埋文で、 戒畑遺跡のタコツボ展 ②子ども「タコツボづくり体験講座」 *保護者はその間ショッピング	市外からの 良い評価を得る ↓ 日常的に提示 ↓ まちを好きに思う 住民を増やす
		岡田浦漁港 (大阪湾で唯一の地引網体験)		岡田浦漁港の皆さんで タコツボ漁体験 + 「漁師メシ」	
B 班	海 + 歴史的 まちなみ	岡田浦漁港 (学校などとの連携に積極的)	地域住民	学校給食で魚を提供 + 漁師さんの講座	住民に地域資源の 良さを知る機会 ↓ 日常的に提供 ↓ まちを好きに思う 住人を増やす
		樽井地区 (近世に廻船業で繁栄)		樽井地区の街並みでまち歩き (まちの故事来歴を知る)	
		信達地区 + 岡田浦漁港 (「歳の市」 + 街道沿いのまちなみ + フジ)		漁師さん + 農家 + 地域で 信達市場地区の街並みで「歳の市」を 復活(藤まつりの時期に)	

A班の内容

*企画書より抜粋

【デザインタイトル】

—未だ見ぬ泉南の魅力—
小さなタコ壺からの大きな可能性

【活用する資源】

戒畑遺跡出土遺物（タコ壺）
岡田浦漁港

【大切にしたい点】

泉南市の歴史文化を日常生活という文脈で捉える

【内容】

戒畑遺跡は「鎌倉時代のタコ壺づくりの村」であったことがパンフレットに記されていますが、このことを出発点として、以下のように地域づくりをデザインしました。

- ①タコ壺の展示 蛸壺の展示→大学・地域・行政で「実行委員会」を組織→埋文とハルカスで展示
- ②タコ壺づくり体験 集客施設を会場に、子どもはタコ壺づくり→その間保護者はショッピング
- ③タコ壺漁体験 岡田浦漁港に協力を求め実施。とれたタコは漁師メシにして食べる。

【情報発信の案】

拠点は「駅」と「ショッピングモール」。フードコートのトレイ敷紙を、広告媒体に。市内の4駅、ショッピングモールで海鮮味噌汁をふるまう。ショッピングモールで朝市をする。

B班の内容

*企画書より抜粋

【デザインタイトル】

港と入場のある風景—せんなんのにぎわい再発見

【活用する資源】

岡田浦漁港
樽井地区
信達地区

【大切にしたい点】

泉南市の地域資源をセットでとらえる

【内容】

岡田浦漁港の地引網体験を、違う取り組みにつなげる。信達地区の「歳の市」の復活。「廻船商いのまちであった樽井地区を周知。

- ①学校給食と「漁港の出前授業」 漁師さんが学校で出前授業→給食に出た魚の説明や漁港の紹介をおこなう→知ってもらうことが目的。
- ②「歳の市」を藤まつりとがっちゃんこ 昭和10年頃まで行われていた「歳の市」を復活→地元産の食材などを販売→当時の衣装で販売運搬→時期は藤まつりの時期→企画段階から学生が関わる。
- ③廻船のまち、樽井 まちの成り立ち＝廻船業であることを、まち歩きなどで知ってもらう。

【情報発信の案】

拠点は「駅」と「ショッピングモール」。泉州弁の館内放送で。チラシ、ポスター、映画館の映像媒体を利用。イベントブースを設置。

これまでの経過

7/28「情報の提供」場所：阪南大学

泉南市職員が学生に情報を提供。どのような地域資源があるのか、どのような活用の実績があるのかなど、講座形式でおこなった（関係者のみ）。

9/19「課題を探る」場所：埋蔵文化財センター

学生が住民と対話をとおして、地域の課題を探ることで、泉南市についての理解を深めるための機会。参加した住民からは、「自然と歴史的が点在する景観」がある一方で「まちを好きになるきっかけがない」などといった課題が提示された（一般参加）。

10/24・11/4「現地調査」場所：泉南市内

これまでに得た情報をもとに、現地を確認。岡田地区、樽井地区、ショッピングモールなどを見学した。

11/24「中間報告会」場所：阪南大学

企画のアウトラインを発表し、指導教官からの指導を受ける機会。泉南市職員も参加した（学生のみ）。

今後の予定

12/1「プレ・プレゼン」場所：阪南大学

本番と同じ発表形式で、関係者からの指導や助言を得る機会。今年度は大阪府文化課、enoco、泉南市の職員が参加する予定（関係者のみ）。

12/15 15:00～17:00 【参加者募集】

「地域資源を活かした観光まちづくりプラン発表会」

場所：埋蔵文化財センター

大学生の視線で考えた地域資源を活かし方を、住民に提案。会場からのご意見を得ながら、実施できるプランに練り上げるのが目標です（一般参加）。

【参加者募集】大学生が考えた
地域資源を活かした観光まちづくりプラン発表会
2014年12月15日15時から17時

会場：泉南市埋蔵文化財センター
問合せ・申込みは、泉南市埋蔵文化財センターまで
TEL:072-483-6789 メールアドレス：maibun@city.